

地区別意見交換会 記録(概要)

開催日時	令和元年8月20日(火) 午後3時00分 ~ 午後4時28分		
開催場所	三依公民館 会議室		
出席議員	粉川昭一(代表者)	齋藤久幸	福田悦子
	阿部和子		
参加者数	4人 (傍聴者)大島藤原行政センター所長、齋藤藤原行政センター所長補佐、高瀬三依地区センター所長、齋藤議長、齋藤副議長		
報告内容	地域のことを教えてください!		
市民意見	議員意見		
<p>五十里自治会は5件、独鈷沢は10件くらい。そのような件数で自治会というのはいかがかと思う。自治会ではないが、各自治会の連絡協議会のような連合自治会という組織があって、古民家再生協会の方たちと中三依駅の周辺に雰囲気の良い古民家再生を総務省の補助金を申請しながら進めていくということでここ2年ほど活動している。総務省の補助金を申請しようとしたら、市から「三依は連合自治会があるので、中三依だけの申請ではだめだ」と言われ、申請できなかった。なので連合自治会の総会に諮ったりしているうちに4か月が過ぎ、その後市から「この空白の4か月は何なのか」と言われた。月日をかけて計画を進めていたのに、その一言でだめになってしまった。中三依駅周辺で古民家再生を計画していたが、地区にある他の駅とあわせて行うようにと言われた。地区内にある5軒や10軒の自治会が機能しないので連合自治会を連合自治会という組織名称を変えてほしい。知らない人は三依地区連合自治会という一つの自治会と勘違いするのでやりづらい。名称変更ができないのなら、地区を一つの自治会にしてほしい。</p>			
<p>五十里ダムができて、ダムのためにそれぞれ散らばってしまった。現在は5軒10人となっている。新たな人口流入も見込めない。神社の行事やお祭りはなんとか頑張っている。ダムができた時は8軒で現在5軒であるということは、減少率としては低いとも言えるが、五十里で困っているのは、湯西川ダム建設に伴い新たに国道のバイパスができたが、旧道も国道のまま、自治会内に2本国道が通っている。本来旧道は県道になるはずだったが、県が引き受けなかったらしく、旧道の維持管理がおろそかになっている。落石などがあってもすぐ復旧してもらえない。五十里は県から見捨てられているような状態。</p>			
	一つの自治会でなかなかうまく機能しない場合、他の自治会と協力しながら自治会活動を行っている地域が市内でもあるようだが、お祭りなど人数が必要な行事など、今後現実的に他自治会と協力して行うことはできないか。		
<p>五十里の場合は「お不動様」が5月28日、9月19日は「〇〇のお祭り」、ともに人数は少ないが、自治会単独でやっている。</p>			
<p>中三依も自治会単独で行っている。五十里の人と中三依のお祭りをやろうという気に自治会としてならない。なので合併が進まないのだと思う。中三依の温泉センターは現在千葉の方が運営して何とか賑わっている。かつては地元で運営していた。その際に故障した設備を直してもらおうと市にお願いしたら、「中三依ではなく全自治会の連名で申請するように」と言われた。中三依だけの問題だが、全自治会連名で申請となると、中三依でない自治会から「温泉センターの売り上げを他の自治会にも配分するように」と言われてしまう。これも三依地区連合自治会が一つの自治会として見られている弊害である。</p>			
<p>横川は盆踊りとどんど焼きが行われている。以前はビュッフェを行っていたが、2~3年前にやめてしまった。</p>			
	盆踊りを行っているのは素晴らしいですね。自分の地域では何十年前から行われていない。		
<p>中三依でも盆踊りを行っているが、自分が若いころは例えば横川の人が歌ったり太鼓をたたいたりしていると怒られた。なので我々が他の自治会の盆踊りに客として行くことはあっても、手伝うことはしない。これも自治会の合併が進まない一つだと思う。</p>			
<p>昔は今より人数もいたし、自治会の意識が強かった。</p>			

市民意見	議員意見
<p>自分は15年前ほど1ターンで移住してきた。農業をしたくて移住してきたが、農地を取得するのに農地法の最低耕作面積をクリアしなくてはならず、5人の地主から農地をかき集めて何とか農業者として認めてもらった。遊休農地と空き家が流動化しやすい施策があると良いと思う。人を増やしたいがそのようなハードルがあるので難しい。ここだけではないが、よそ者に土地や家を買ったり貸したりするのは古いコミュニティでは難しい。親戚などから「なんであいつに貸したのか」と言われたくないので、使っていない空き家なのに事なかれ主義的に貸さない。家を残しておくのであれば、その家を地域で見守っていくわけなので、住んでいなくても自治会費的なものを払うか、この地域の未来に責任を持たないのなら放棄してほしいと思うが、個人の財産なので難しい。そうすると塩漬けになった物件がどんどん増えていって、残った人間が出来ることがどんどん狭められてしまう。法律や税制が変わらないと難しいのかと思う。農地の件だが、ここに定住するまでは全国旅をして土地を探しまわった。長男が小さかったこともあり、どんな土地に行っても歓迎ムードだった。土地を探していると話すと「ぜひ来てくれ、草を刈ってくれるなら農地はタダで良い」というのが全国的な風潮だった。しかしここは違った。農地は荒らしてはいけないのは農地法にも定められているが、ここは草を生やしても誰も文句を言わない。農地がこれほど荒れている地域はめずらしい。もう少し農地法を厳格に守らないと、荒れた農地はもっと増えるし、流動化が進まない。</p>	
	<p>どんな作物を作っているのか。</p>
<p>自給用に食べたいと思うものを何十種類作っている。主食としてはイモやカボチャなど。</p>	
	<p>SNSで市外県外の方と交流を持っているようだが、三依にどんな形なら人を呼び込めると思っているか。</p>
<p>農業をやろうと思ったら条件が良い場所は他にいくらでもある。自分は人がいなかったからこの場所を選んだ。自然農法や無農薬で農業をしようとする、農村地帯では隣の農地にも虫が寄ってきて文句を言われるので難しい。特殊な農業をしようとしたら周りに人がいない場所のほうが良い。特殊な人でないとこの地に来にくいのが、そのような人が世の中にもいないわけではない。どこにアクセスするとそういった人と接触できるのか模索している。IT関係の仕事で自立できていて都会に住む必要が無い人なら、こんな良い場所はないと思う。</p>	
	<p>子どもを育てるにあたっての苦労や良かったことは何か。</p>
<p>良いことの方が多かった。学校はたまたまあったのでラッキーだった。学校は無くても仕方ないという覚悟で移り住んだ。小中学校あわせて児童生徒が7名でほとんど個人授業状態。1人の子に年間何百万円も教育費がかかっている。ここをセールスすれば来たがる人はいるのではないかと思う。</p>	
	<p>地域おこし協力隊が新たに赴任したと思うが、その力を借りて協力しあいながら生活支援を受けるのも良いのではないか。</p>
<p>地域おこし協力隊の力を借りるというより、その人たちがこの地で起業できるように、お互い助け合って、その人たちが自立してここに住み税金を納めるといったのが目的だと思う。しっかりとしたビジョンを持って、それなりの才覚がある人が一納税者として自立してもらえれば良いと思う。国の制度で腰かけのお金をもらって3年間我慢するといった人が今まで何人かいたが、しっかりと人選してほしい。今いる人は獅子舞など協力してくれて自立心旺盛なので期待している。</p>	
	<p>伝統芸能は重要だと思う。人数が少なかったり担い手不足の課題など、獅子舞の話をもう少し詳しく教えてほしい。</p>
<p>獅子舞には自分が移住した15年前にすぐに入れてもらった。2年目の春の祭りの後一旦途切れた。6年ほど前に若い人たちが盛り上がりまた始まった。</p>	
<p>それまでは中三依自治会の獅子舞としていたが、担い手がいなくて地区外の人でも舞って行っている。</p>	

市民意見	議員意見
<p>この地で活発な活動をしているのは、消防団を中心とした人で、お祭りにせよ獅子舞にせよ、出てくる人は固定化されている。50代～60代の人を中心。その前の世代の人が行っていた獅子舞は中三依主義だった。今はそのようなことは言ってもらえない。</p>	
<p>中三依の獅子舞を学校の授業で行った。学校で行うと中三依以外の子どももいる。中三依の獅子舞の前に子ども獅子舞を行ったところ「何で中三依以外の子どもがやっているのか」と言い出す人がいたので、自治会から切り離して行っているが、心情的にだめな人がいるのは確か。</p>	
<p>そういった人は少なくなったと思う。聞くところによると半世紀前くらいは「国道沿いの旧家の長男でなければだめ」という風潮があったようだ。小学校の授業でやっているのに、中三依の獅子舞には加入できないという世代間ギャップがあり、入れるのに入りたがらない人がかつてはいたとのこと。</p>	
	<p>横川から獅子舞を踊りに中三依に来る人はいるのか。</p>
<p>一人いる。</p>	
	<p>そうするとだんだん三依地区全体で獅子舞を行おうという雰囲気になるのでは。</p>
<p>獅子舞が終わった後の直会で中三依以外の人にお酒を振る舞おうとすると、「地区外の人は向うに行け」と言う人がいたりして、なかなかまとまらない。彼も一度自治会を除名というか、いつの間にか自治会の名簿から削除されていた。今の自治会長が頭を下げてまた戻ってもらった。彼がいなくて自治会が回らない。</p>	
	<p>もう立派な地域の担い手ですね。</p>
	<p>そのように移住者が獅子舞などを継承されているのに、まだそのような風潮があるのか。</p>
<p>そういった人は少なくなったが、声の大きい人になびく風潮はある。</p>	
	<p>冒頭に連合自治会の話があったが、獅子舞の例のように融合していけそうな気もするが。</p>
<p>三依地区にはかつて消防団が4つの分団あったが、五十里以北が統合し1つの分団となった。統合から10年以上たった今も内部では実際以前と同様な別れ方をしている。消防団でさえそうなので、自治会がまとまるというのは難しいのではないか。</p>	
<p>三依地区というところは封建的なので、他から来た人を受け入れるということが少ない。愛着がある故でもあるが、移住してきた人は住みずらいのではないか。</p>	
<p>自分は変わっているので移住してきた初めは猫をかぶって地域を観察していた。地域の人は皆が仲良しなわけではなく、いがみ合っていたりする。よそ者だけが八方美人になっている必要はなく。地域の人たちと時には喧嘩して初めて地域と同化できると悟ったので、言いたいことは言うようにしている。</p>	
<p>彼の前にもターナー者がいたが、地元とトラブルがあって表に出てこなくなりました。彼は初めから地主と喧嘩をしたりしていたので溶け込めたのではないかと。我々はどこも行く所がなく受動的にここにいる。親や小中学校時代先生からは「お前たちは一生懸命勉強して将来は都会でがんばれ」と言い聞かされていた。しかし東京で錦を上げることがかなわず肩を落として帰ってきた我々からすれば、能動的にこの地を住処に選んでいる彼をうらやましく思うのだと思う。</p>	
	<p>今の話を聞いて何か思うところは？</p>

市民意見	議員意見
<p>ここで生まれ育つと、しきたりのような物は普通だと思ってしまうが、ここでの普通であるだけなので、いろいろなものを受け入れていく必要があると感じた。</p>	
	<p>今までの話を聞いていると、封建的な高齢者がいると感じたが、若い人たちはどう考えているのか。</p>
<p>若い人はいない。60歳くらいでも若いほうになってしまう。</p>	
	<p>人口減少や空き家対策などを考えるとき、やはり移住者であったり新しい考え方を受け入れていかなければならないのではないかと感じた。</p>
<p>古民家再生協会の人たちと「三依を何とかしたいね」と2年ほど協議を重ねてきたものを形にしたいと思う。この地区は川沿いに民家が立ち並んでいるが、鬼怒川や川治のようにビルが全くない風景というのが宝だと思うようになった。</p>	
	<p>古民家再生協会の人を知っているので、ここでの事業の話も聞くことがあるが、今までお話を聞かせていただいた世代間の理解が得難い中でそのような大きな事業を行うには、地域も和らいでいかないと難しいところがあるのかなと感じた。</p>
<p>この地域にはバイタリティが足りない。例えば空き家を貸しましょうという時は家の中を整理しなくてはならない。その労力が出せないところが問題。</p>	
<p>空き家になっている家には位牌が置いてあって、親類がお盆に集まり墓参りをして帰っていく。</p>	
<p>土地家屋の名義を変更しておらず、2代前くらいの方が名義人になっていることも多い。親戚全部のハンコがないと名義も変更できず売買を困難にする。</p>	
<p>先日亡くなった方の家を外に出ている親類が解体しようとしたら、中をきれにしたうえで200万円かかると言われたそう。そんな中その家を100万円で買いたいという人が現れた。しかし人間とは「欲しい」と言われるともったいなく感じてしまうものだ。</p>	
<p>海外資本で買い占められてしまう前にどこかで気づいた人が資産の保全をしないと大変なことになる。</p>	
	<p>他市に住む母が亡くなったときに、不在になってしまう家屋の整理を子どもやその友達に手伝ってもらい綺麗にしたら、その家を借りたという人が次々に現れた。綺麗にするとそれだけで価値が上がる。</p>
<p>中三依は地元の人だけでは盆踊りを開催するのが困難なので、東京に出て行った人たちにも企画から手伝ってもらい盆踊りを開催している。ここから出て行った人は、お盆時期に戻ってきて何か壁を感じるようで、それを取り除くためにも、こういったことから始めていきたいと思う。</p>	
	<p>ちょうど変わる時期にきているのかもしれない。声の大きい人が少なくなってくると、自分たちが考えていたことができるようになるのかもかもしれない。</p>
<p>声の大きい人が仮に80歳になったとして、その人が40年間言い続けてきたことを今の40代50代の人が聞いてきて、今40代50代の方が同じようなことを言い出す可能性はあると思う。本当なら様々な世代の人が議論しなければいけなかったのだろうが、面倒なことと捉え議論されずにきた。みんなで集まって酒を飲んで議論する機会も少なくなったのも影響している。</p>	
<p>ここは合議するという習慣がない。PTAでも自治会でも執行部案を承認するための会議になっていて、意見を出し合って作り上げるという習慣がない。</p>	

市民意見	議員意見
そのため喧嘩をしなくていい。長が言うことを承認しましょう、言う通りやりましょう、というのが長年続いてきた。	
	女性の姿が見えないのだが。
三依の女性のほうが保守的かもしれない。嫁いできた人のほうがいろいろ動いている。	
	ここで切り口を変えて、三依自慢を聞かせていただきたい。
東京から電車1本で来られる秘境というのが何にも代えがたいポテンシャルだと思う。全国歩き回って、このような川と山の綺麗さと広葉樹の森がある所は珍しい。この売り物である自然を大切にしていける必要がある。	
鉄道は通っているし、会津・塩原・今市方面と3方向に道路もつながっているし、豊富な自然もあるところが良い所。ただ不便であることに変わりはない。	
	産業の育成も必要なのだと思う。働く場所があると若い人も戻ってくるし残ってくれる。
仕事という切り口で考えると行き詰る。東日本大震災の前までは、釣りが趣味の人でここに住みたいという人がよく遊びにきていた。最近ではカヌーが大好きな人が遊びにくるようになってきている。そういった人たちに、のんびり暮らせる所だということ売りにするのも方法だと思う。	
自分はここに移住して農業を始めた。お年寄りは農業の先生として接する機会が多いが、昼間働きに出ている中堅世代との接点がない。	
なかなか良い所が出てこない。	
	良い所と課題は背中合わせなので仕方がないところだと思う。それだけ地域への思いが強い方がいることはマイナスではない。自分が住んでいる所も似たようなところがある。旧村と言われる元々の方しか神社関係に携わっていなかったり、人口規模は違えど課題は似ている。
過疎問題は近代化の一つの側面で、一方で都市部での過密という問題もあり、こちら側だけ注目しても解決しない。大きな視点での施策が必要だと思う。	
五十里で自慢できるのは、人数が少ないので一つの家族のような関係性があるところ。良いチームワークが取れている。	
自分の母親が一人で暮らしていた頃、朝8時まで寝ていたら近所の人々が何かあったのかと尋ねてきた。それだけ密な付き合いがあるということ。	
	地域力がまだまだあるなと感じた。今市ではそのような関係性がない。
日光にはスキー場が2つあり、そこに携わっている市民もいて、市の産業でもありながら、子どものスキー教室は塩原に行ってしまう。税収確保の観点からも市内スキー場で行うべき。市に愛着を持ってもらう意識づけにもなると思う。	
	今日聞かせていただいた貴重なお話を議会活動に活かしていけるよう努力する。

市民意見	議員意見
<p>【班としての総括・所感】 三依地域での意見交換会は、参加者4名と少数であったが、地域のことを伺うことが出来たと感じる。意見交換会の中で、人口減少による地域コミュニティの課題を多く伺ったが、三依地域内の地域毎に行われているまつりや盆踊りなどの地域行事をはじめ、獅子舞など伝統行事もしっかりと伝承されている。また、三依を離れた人々も、お盆などに帰省して住民と共に地域行事に取り組むことは、地域への愛着を強く感じることが出来たと思う。しかし、地域の愛着が強いが故の弊害も伺い、世代間のギャップを感じたが、徐々に新しい考えが浸透している事も理解できた。三依地域は、歴史と伝統ある地域であり、伝統行事や風習などをこれからも大切にしたいと思うが、そのためには三依地域全体として共有しようとする意識が、今後必要となってくると感じた。 移住された方からも参加を頂いてお話を伺ったが、外からの率直な意見や、三依地域の魅力など貴重な意見を聞く事が出来た。この貴重な意見をどう活用していくかが必要であり、このことは、三依地域は基より市内他地域にも重要な点になると感じた。</p>	
<p>【今年度の地区別意見交換会についての課題】 三依地域での課題は、参加者数である。開催時間、時期に検討の余地があったかもしれないが、高齢化と人口減少が進んでいる地域での開催は、開催方法の再考が必要と考える。広い地域でもあり、来場の課題もあり参加できる方が制限されると思われるため、周知方法・会場設定・開催内容等の工夫が求められると考える。</p>	
<p>広報広聴委員長 様 上記のとおり、報告いたします。</p> <p style="text-align: center;">令和元年12月20日</p> <p style="text-align: right;">第2班 代表者 粉川 昭一</p>	